

住宅火災・放火火災の実態の概要（平成30年中）

第1章 住宅火災の実態

※住宅火災の死者・負傷者は自損によるものを除く

住宅火災の件数

火災件数は減少傾向であるが、総火災件数並びに建物から出火した火災件数に占める住宅火災件数は横ばいである。

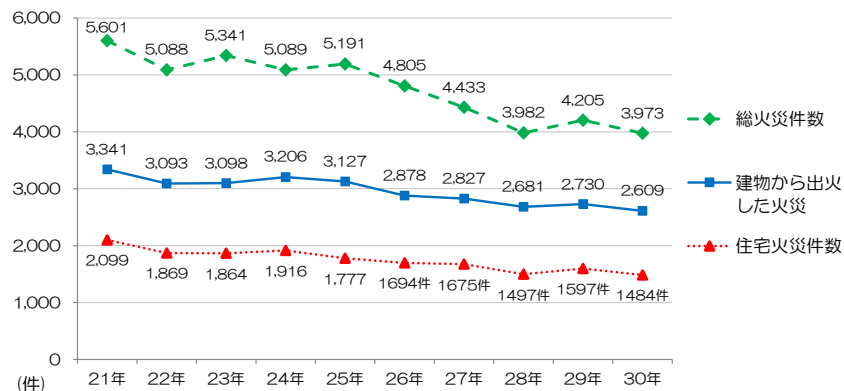


図 過去10年間の住宅火災件数等の推移

住宅火災の死者

住宅火災の死者数はほぼ横ばいであり、高齢者の死者は7割以上と高い割合で推移している。

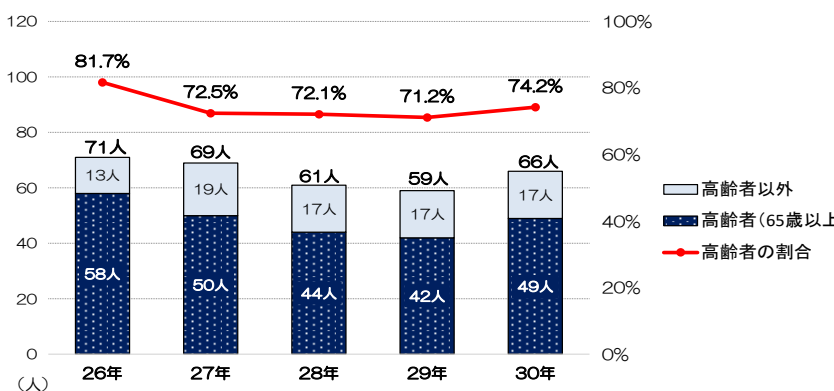


図 過去5年間の住宅火災の死者と高齢者の割合

住宅火災の高齢者の死者

住宅火災の死者を世帯別で見ると、「高齢者一人暮らし」で最も多く発生し、「高齢者夫婦のみの世帯」と合わせて半数以上を占めている。

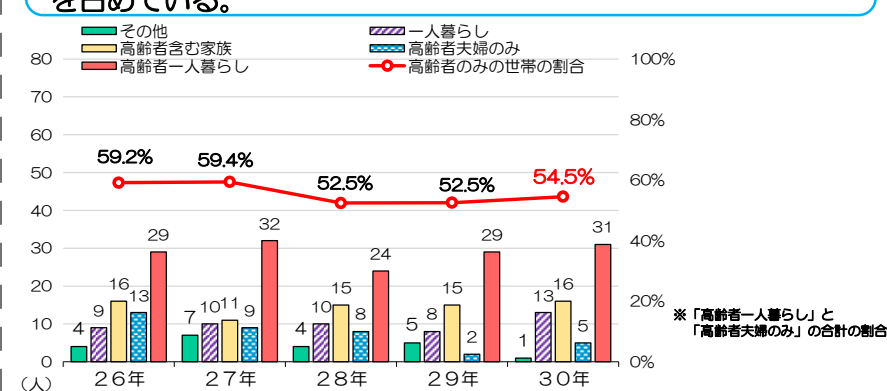


図 過去5年間の住宅火災の世帯別死者数

住宅火災の出火原因

住宅火災の出火原因は、「こんろ」によるものが最も多い。

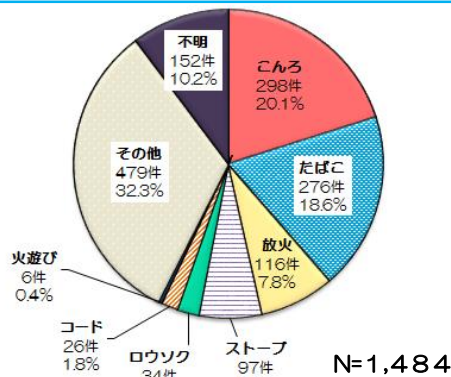


図 住宅火災の出火原因

死者が発生した住宅火災の出火原因

死者が発生した住宅火災の出火原因は、「たばこ」によるものが最も多い。

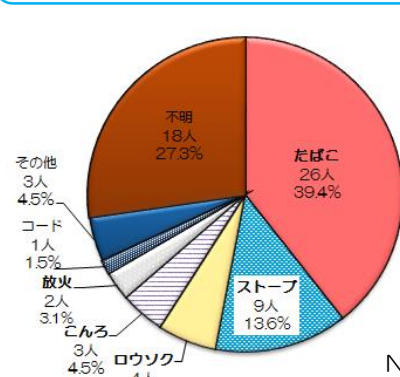


図 死者が発生した住宅火災の出火原因

死者が発生した住宅火災の主な出火原因の発生経過

主な出火原因の発生経過をみると、「たばこ」は寝たばこ等による火種の落下、「ストーブ」は可燃物が接触、「ろうそく」は火源が転倒したものが最も多い。

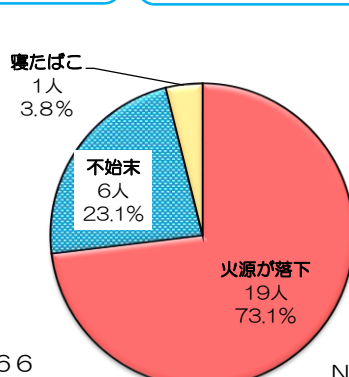


図 「たばこ」の発生経過

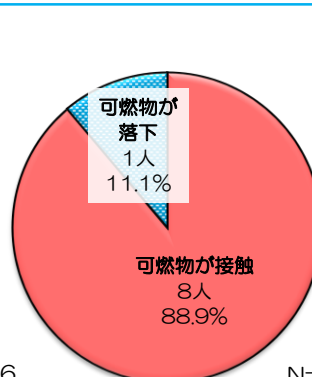


図 「ストーブ」の発生経過

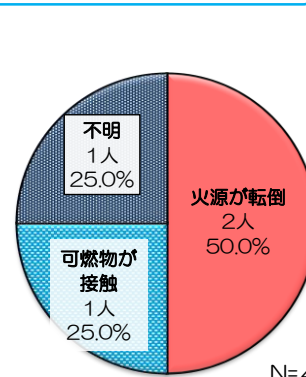


図 「ろうそく」の発生経過

負傷者が発生した住宅火災の出火原因

負傷者が発生した住宅火災の出火原因は、「こんろ」によるものが最も多い。

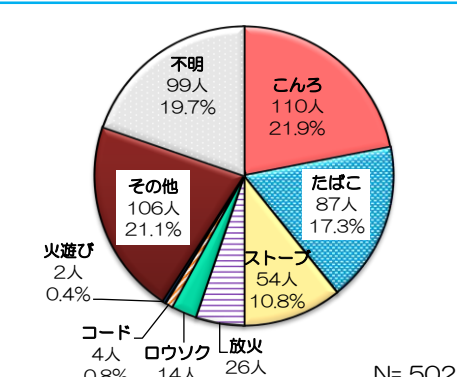


図 負傷者が発生した住宅火災の出火原因

住警器等設置状況別の死者発生数

住警器等設置状況別の住宅火災による死者発生数を見ると、設置なしが約半数を占めている。

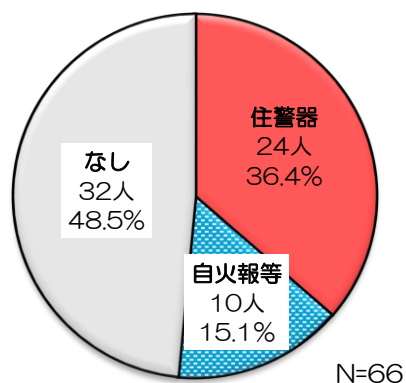


図 住警器等設置状況別住宅火災による死者発生数

住宅用火災警報器等設置状況別の比較

住警器等設置状況別に、火災100件あたりの死者数、火災1件あたりの焼損床面積及び損害額を比較すると、住警器等の「設置あり」の方が被害が少ない。

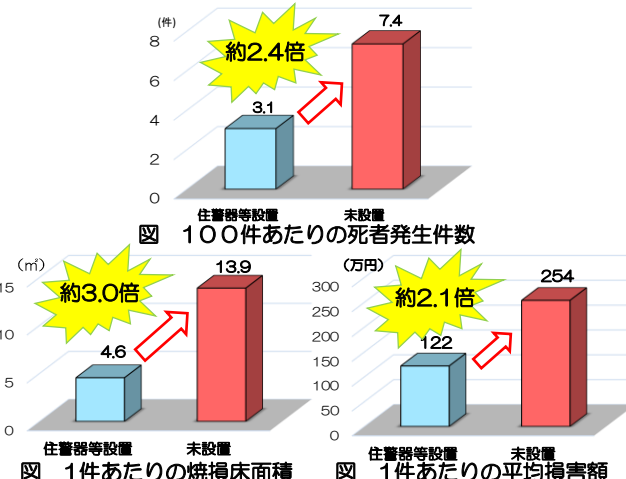


図 100件あたりの死者発生件数

図 1件あたりの焼損床面積

図 1件あたりの平均損害額

第2章 放火火災の実態

放火火災の発生件数

放火火災の件数は減少傾向であり、平成28年から1,000件を下回っている。総火災件数に占める放火火災の発生件数の割合は、過去10年で最も低い数値となっている。

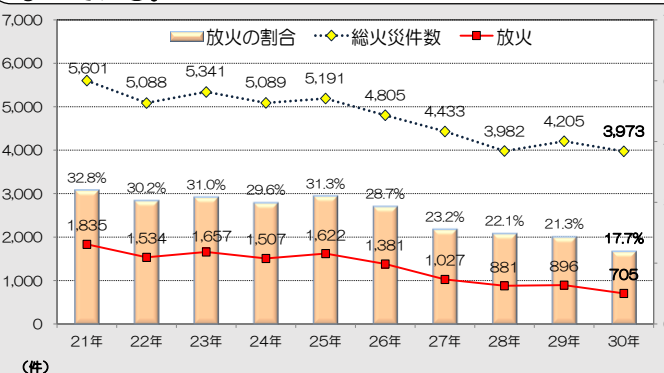


図 過去10年間の放火火災件数等の推移

放火火災の発生時間帯

時間帯別に見ると、0時～3時、16時～18時及び22時～23時台に多く発生し、火災に占める放火火災の割合は、2時～3時が高くなっている。

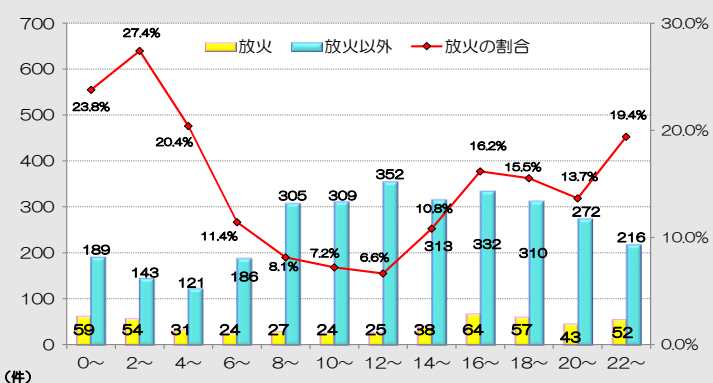


図 時間帯別放火火災発生状況

※住警器等は住警器及び自火報等設置ありの件数
死者発生件数は死者及び負傷者の両方は発生した件数を含む